

証 明 書

株式会社 メルコエアテック

代表取締役 成瀬 義勝 殿

東京都中央区日本橋茅場町2丁目9番8号

友泉茅場町ビル

財団法人建材試験センター

理事長 大高 英男



平成14年 6月14日付けで申請された以下の製品は、次の告示に該当することを証明する。

平成14年 7月17日

1. 対象製品

商品名：「温度ヒューズ連動防火ダンパー」

2. 該当告示及びその内容

平成12年建設省告示第1369号第1第二号に定める防火ダンパー

3. 申請内容の説明

詳細を別添1に示す。

4. 証明の条件

本証明は、申請者の提出資料に基づいて判断したものである。提出資料の内容に含まれないものもしくは異なるものについては、証明の対象外である。

当該製品の取り付け要件、遮煙性能及びヒューズの作動要件については、証明の対象外である。

別添1

申 請 内 容

1. 商品名
「温度ヒューズ連動防火ダンパー」

2. 申請の概要（申請者の提出資料による）

2-1. 製造者名
株式会社 メルコエアテック

2-2. 製品の形状・寸法等
製品の形状及び寸法を表1に、羽根の寸法を表2に示す。

表1 製品の形状及び寸法

単位：mm

| 形名 | サイズ | 開口面積 (m ²) | 寸法 | | | | |
|--------|------|---------------------------|-----|-----|------|-----|-----|
| | | | φA | B | C | D | E |
| AT-125 | φ125 | 0.016 | 146 | 370 | 74.5 | 122 | 216 |

表2 羽根の寸法

単位：mm

| 形名 | 羽根寸法 | | 羽根枚数 |
|--------|------|------|-------|
| | φa | b | |
| AT-125 | 71.5 | 67.5 | 半丸形2枚 |

2-3. 製品の組成及び構成

製品の組成及び構成を表 3 に示す。

表 3 製品の組成及び構成

単位：mm

| 品番 | 名称 | 組成及び構成 |
|----|-----------|--|
| 01 | ケーシング | 材質：熱間圧延軟鋼板 SPHC (JIS G 3131) 表面処理：エポキシカチオン電着塗装 厚さ：1.6 |
| 02 | 仕切板 | 材質：冷間圧延鋼板 SPCC (JIS G 3141) 表面処理：エポキシカチオン電着塗装 厚さ：1.6 |
| 03 | 羽根 | 材質：熱間圧延軟鋼板 SPHC (JIS G 3302) 表面処理：エポキシカチオン電着塗装 厚さ：1.6 |
| 04 | 羽根軸 | 材質：機械構造用炭素鋼鋼材 S20C (JIS G 4051) 表面処理：エポキシカチオン電着塗装 径：φ8 |
| 05 | 天吊金具* | 材質：冷間圧延鋼板 SPCC 表面処理：エポキシカチオン電着塗装 厚さ：1.2 |
| 06 | 温度ヒューズ* | 融点 72℃ |
| 07 | 検査口* | 材質：熱間圧延軟鋼板 SPHC 表面処理：エポキシカチオン電着塗装 厚さ：1.6 |
| 08 | 開閉操作レバー* | 材質：熱間圧延軟鋼板 SPHC 表面処理：エポキシカチオン電着塗装 厚さ：1.6 |
| 09 | ヒューズ取付金具* | 材質：熱間圧延軟鋼板 SPHC 表面処理：エポキシカチオン電着塗装 厚さ：1.6 |
| 10 | スプリング* | 材質：ステンレス鋼線 SUS304 表面処理：エポキシカチオン電着塗装 径：φ1.4 |
| 11 | 羽根ストッパー | 材質：熱間圧延軟鋼板 SPHC (JIS G 3131) 表面処理：エポキシカチオン電着塗装 厚さ：2.3 |

*：証明対象外

2-4. 製品図

製品図を図 1 ～図 3 に示す。

単位:mm

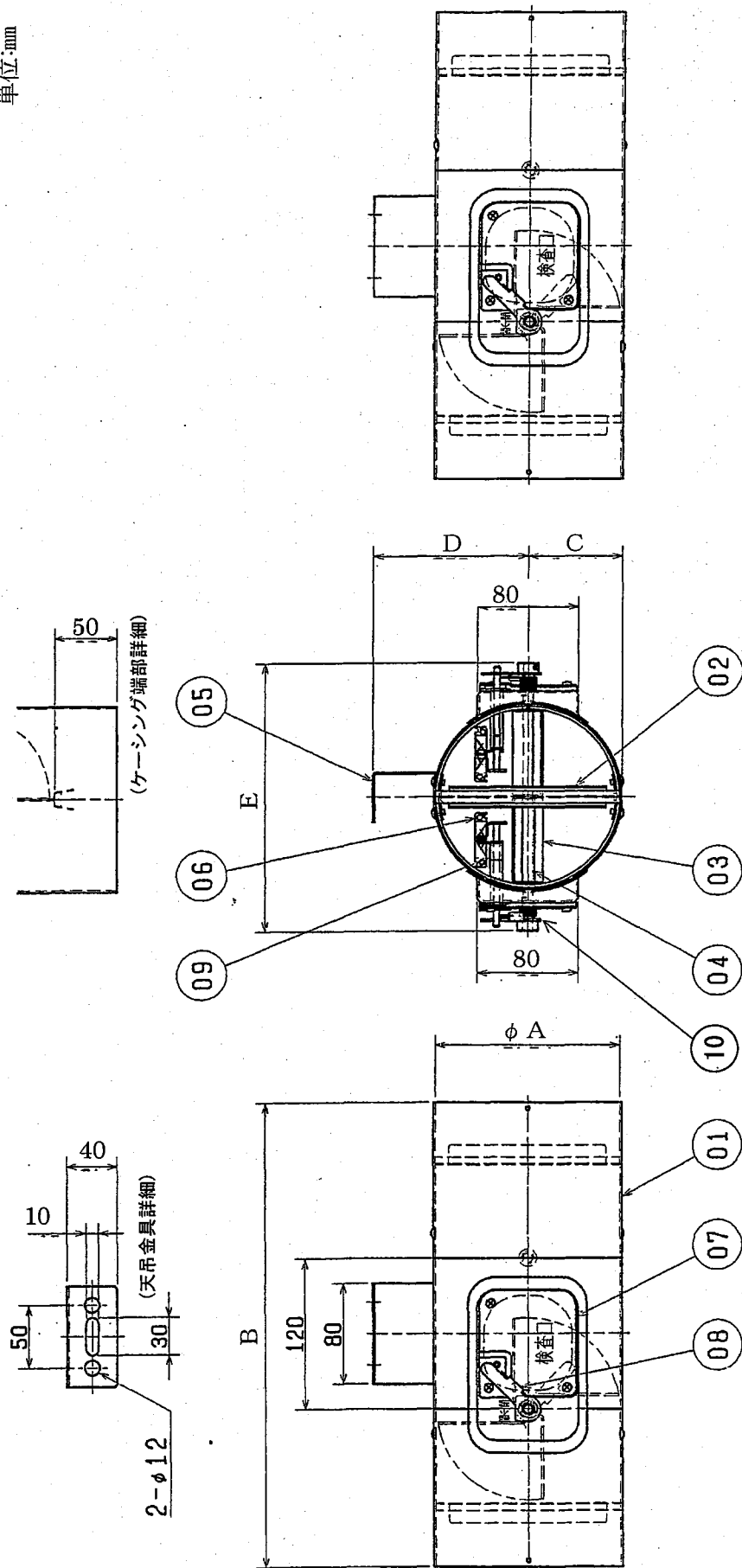


図1 製品図

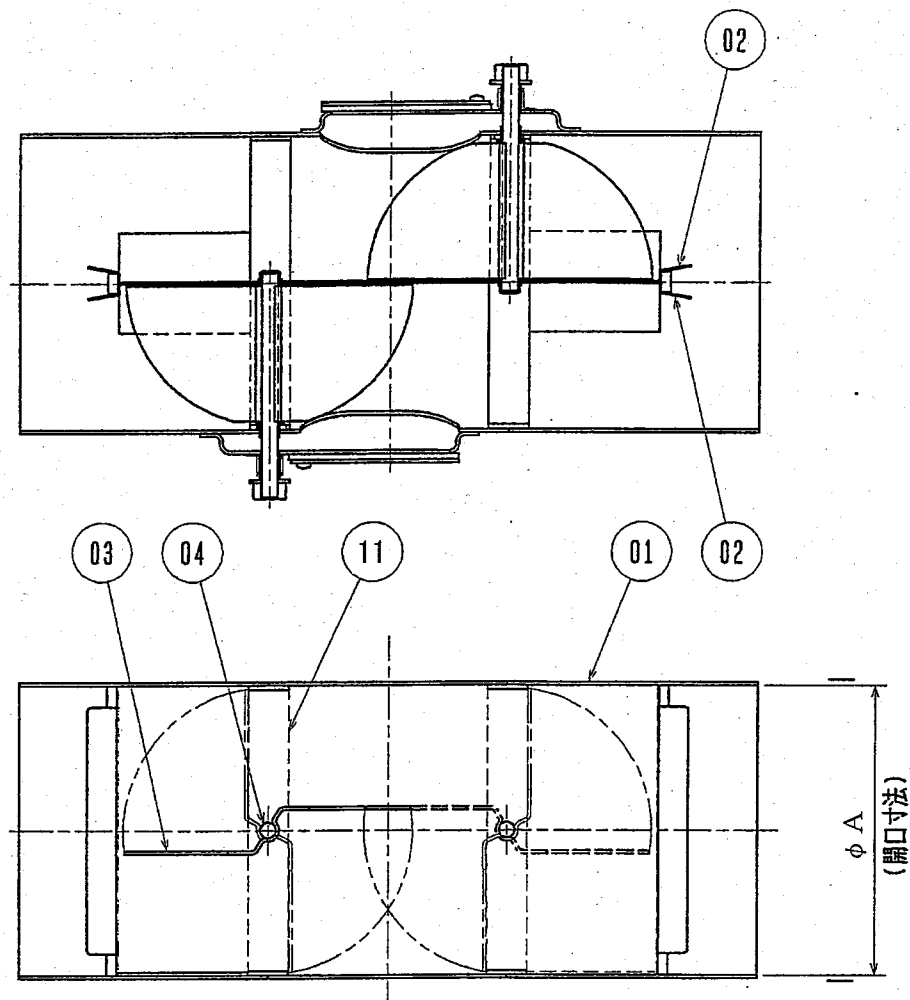


図2 製品図

単位:mm

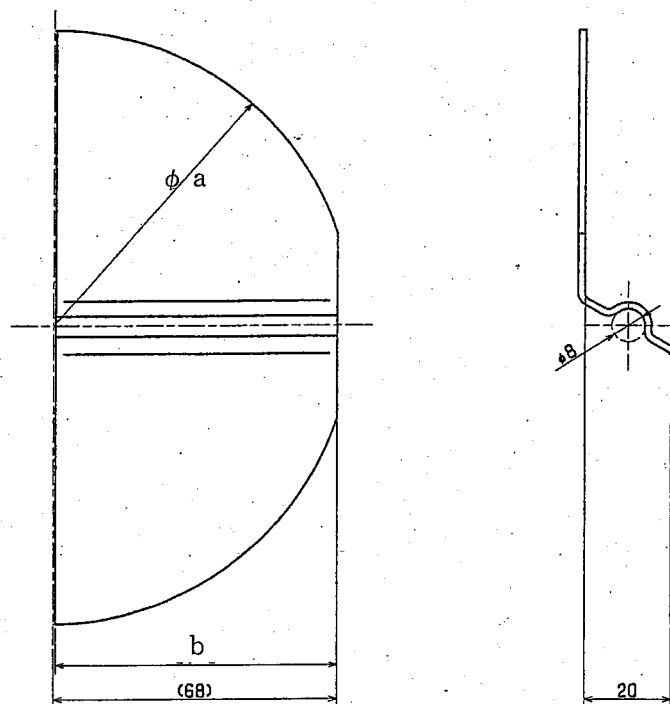


図3 製品図 (羽根部)

3. 証明の根拠

3-1. 申請製品の概要

申請された製品は、羽根及びケーシングを厚さ 1.6 mm の熱間圧延軟鋼板 SPHC で構成しているものである。

3-2. 告示の記載事項

平成 12 年建設省告示第 1369 号第 1 第二号に該当する構造として、「鉄製で鉄板の厚さが 1.5mm 以上の防火戸または防火ダンパーであること」と定められている。

3-3. 考察

申請製品は、羽根及びケーシングを厚さ 1.6 mm の熱間圧延軟鋼板 SPHC で構成しているが、熱間圧延軟鋼板は鉄材の一種であり、鉄製とみなすことができる。なお、開口径の大きさが異なっても、同一の材料を用い、かつ必要厚さを確保しているため、ダンパーが閉鎖した時に閉鎖状態が保持されれば、火炎が通る隙間を生じないことから、防火上の影響はないものと判断できる。

したがって、「外壁用温度ヒューズ連動防火ダンパー」は、平成 12 年建設省告示第 1369 号第 1 第二号に規定される防火ダンパーに該当する。

4. 証明担当者

仲谷一郎、佐伯智寛